

可能

渋谷勝己

A. 解説

1. 可能とは

可能とは、人間その他の有情物(ときに非情物)の動作について、「～することができる、できない」といった、それを実現することの可(肯定文)否(否定文)を述べるものである。可能を表す文を可能文、可能を表す述語形式を可能形式という。

ところでこの規定は、可能文あるいは可能形式を、可能の意味を表すものとするものである。このような、意味を出発点とする規定の常として、この規定もまた、可能文や可能形式にどのようなものを含めるべきか、その輪郭を必ずしも明確に描き出しているとは言えない。そこには次のような問題がある。

(a-1) 可能形式の範囲。共通語について言えば、「話せる・泳げる」などの可能動詞、「見られる・開けられる」などの助動詞ラレル、「勉強できる」などのデキルを可能形式とすることには合意が得られようが、「(見捨て)がたい」「(予想し)にくい」などの難易を表す形式、さらには「(読み)えた」などの意志動詞についたものは別として)無意志動詞に付加した場合の「(有り)うる」のような生起可能性を表す形式を可能形式に含めるかどうかには議論があろう。

(a-2) 可能形式の多義性。また、可能動詞やデキルなど、典型的な可能の意味を担うとされるものでも、ときに可能との区別が明確ではない意味を多義的に表すケースがある。それは、「(駅前にビルが)できる」「(和歌が)できる」のように、当該形式が可能を表すようになる前の起源的な意味であることもあり、また、「(芝生には)入れません」(禁止)のように、可能の意味から語用論的に派生してできた意味であることもある。ちなみに、「やっと書けた」の「書けた」など、書くという動作を実際実現したことを表すものは、「可能」ではないとする意見もあるであろう。

いずれにしても可能文や可能形式、可能の意味は、輪郭が明確な「閉じた体系」というよりも、典型は認められつつも輪郭の不明瞭な「開いた体系」であるということができる。各地方言の可能文を記述し、また言語地理学的にその地理的分布の成立過程や変化の過程を考えようとするときには、「可能」の意味をできるだけ広く捉えておいたほうが、再調査の手間が省けるということをもまず記憶に留めておきたい。

可能

2. 日本方言の可能

可能文にかかわる記述は、可能文のもつ特徴的な形式を明らかにすることを目的とするとき、次の3点に注目して行われることが多い。

(a) 述語形式：それぞれの動詞の活用タイプがとる可能形式の特徴。たとえば共通語では、典型的な可能形式は、基本的には次のような相補分布をなす。ただしラ抜きことばの普及によって、この相補分布は崩れつつある

- (1) a 五段動詞：可能動詞（話す 話せる、書く 書ける）
- b 一段・力変動詞：動詞未然形 + 助動詞ラレル
 （見る 見られる、来る 来られる）
- c サ変動詞：補充形式デキル（勉強する 勉強できる）

(b) 格パタン：無標の文と対比したときの、可能文の、動作主体を表す助詞と対象を表す助詞のありかた。共通語では、無標の文の格パタン（(2a)）を保持する場合（(2b)）のほか、一方（(2c)）もしくは両方（(2d)）の格が交替することがある。（2e）の組み合わせはない。

- (2) a [太郎が 英語を 話す] こと
- b [太郎が 英語を 話せる] こと
- c [太郎が 英語が 話せる] こと
- d [太郎に 英語が 話せる] こと
- e* [太郎に 英語を 話せる] こと

(c) 可能の意味の下位分類とそれを表しわけする複数の可能形式。典型とされる可能の意味は、これまで、次の2つにわけられることが多かった。

- (3) a 能力可能：動作主体のもつ能力によって動作の実現が可能・不可能であることを表す。
- b 状況可能：動作主体を取り巻く外の条件によって動作の実現が可能・不可能であることを表す。

この2つの意味は、共通語では同じ形式で表されるが、多くの方言ではそれぞれ別の形式でもって表現しわけられており、経験的な根拠をもつ。各地の方言における使いわけの状況を記せば概略次の通り。

表 各地方言における可能の分節状況（能力・状況）

地域	能力可能	状況可能
東北地方北部	キレル	キルニイー
東北地方日本海側	キレル	キラレル
中部地方	キーエル	キレル
近畿地方	ヨーキル	キレル
九州地方北部	キキル・キーユル	キラレル
沖縄本島	チーユースン	キラレル

3. 調査の着眼点

第2節で指摘した3つのポイントのうち(c)で指摘した2つの可能の意味は、方言の可能文について記述し、またそれを言語地理学的に考察するには、参照枠として不十分である。この節では可能の意味を中心として、調査の着眼点をまとめる。

3.1. 可能の意味の分類基準の2種

各地の可能形式の分節のありかたは、次の2つの基準によって考えると捉えやすい。

(a) 潜在か実現(完遂)か

潜在：動作の実現の可不可について、その動作を行う力や条件がそろっているかどうかだけを述べるものである。基本的に動作の発動は、確実に行われるものとしては予定(過去の場合、実現)されていない。

(4) きょうは気分がいいから何時間でも泳げるよ。なんなら10時間泳いでみせようか

(5) A：あした大学行ける？

B：行けるけど、どうして？

(6) そのとき、そこに行けたのに行かなかった

実現：動作の実現の有無も含んで述べるもの。動作の発動が予定されているか(未来)、実際に発動されている(過去・現在)。

(7) (スケートをしながら)ほら、今日は体調がいいからこんなにすいすいすべれるよ

(8) そのときようやくそこに行けた

(9) 途中までは走ったが、最後までは走れなかった

ここでは一応、動作の発動(の予定)の有無ということを分類の基準とするが、潜在可能と実現可能を形式的に区別する方言があるとき、そのすべての方言についてこの基準が妥当なものであるのかどうか、まだ十分に確認できていない。今後、調査によって確認すべきところである。

(b) 可能であることの条件

心情：主体内部に永続的に存在する心情(性格)的な条件(性格や気持ち、勇気など)によって可能・不可能であることを主観的に述べるもの。否定文の場合、「～したくない」といった意味に近い(肯定文については3.2.2(b)参照)。一人称主語の文が典型であり、三人称については感情移入がある場合にこのタイプとなる。

(10) 恥ずかしいから行けない

能力：主体内部にほぼ永続的に存在する能力的な条件によって可能・不可能であることを客観的に述べるもの。この場合の能力には、生得的なもの、学習によって獲得されたものなどがあり、さらに下位分類ができる。

(11) 体力がないから行けない

内的条件：主体内部の、病気や気分などの一時的な条件によって可能・不可能で

可能

あることを述べるもの

(12) 今日は気分が悪くて行けない

外的条件：主体外部の条件による可能・不可能を述べるもの(2節(c)の状況可能に相当)

(13) 忙しくて行けない

心情・能力と内的条件はいずれも行為主体内部の条件ではあるが、心情や能力が永続的な条件であるのにたいして、内的条件は一時的な条件である点で異なっている。外的条件は、永続的であることも一時的であることもある。

(14) この魚は毒があるから食べられない(永続的、B項7の属性可能)

(15) 今日は郵便局がしまっているので、手紙が出せない(一時的)

以上(a)(b)に整理した2種類の分類基準について、4点ほど補足する(以下の(a)(b)の記号は、上記記号に対応)。

(a-1)潜在可能文は状態を表すのでテイルが共起しないが、実現可能は達成を表すため、(共通語では)テイルが共起した文を作ることができる。

(16) 太郎は今日もうまく泳げている(進行)

(17) 太郎はうまくケーキが作れている(結果)

(a-2) 実現可能について、各地での分節例をいくつかあげる。

- ・東北地方広範囲：「着れた！」「書けた！」といった、その場ではじめて実現した動作に言及する実現可能形式をもたない。またテイル形をもたない場合もある。
- ・宇和島方言：実現可能に着レル、潜在可能に着レルなどを使用する。
- ・ちなみに英語では、過去表現において、実現可能に was/were able to を、潜在可能に could を用いて区別する。

(b-1) 能力可能と外的条件(状況)可能はかなり普遍的な条件であり、世界の多くの言語で使いわけがある。能力可能は、世界の言語では、能力や知識を表すことばを起源とすることが多いが、日本語の方言では、～エル、～キル、～オーセルなど、「何かを最後まで成し遂げる(完遂)」といった意味を表す補助動詞が起源になることが多い。

(b-2) 心情可能は、能力可能がモーダル化して用いられるようになった特殊なものである。モーダル化しているか否かは、過去の文が作れるか、三人称の文が作れるかといったテストで判断することができる(作りにくくなっている場合、モーダル化が進行している)。大阪方言のヨーなどは、一人称現在の文に限定されつつある。

(b-3) 内的条件可能は、大分方言などで分節されるとの報告がある(種・糸井 1977「大野川流域における可能表現」『大野川 自然・教育・文化』大分大学教育学部)。

3.2. 調査票作成上の注意

本項では、3.1で整理した意味をベースにして可能の調査票を作るときのやや細かい注意点を、可能の意味の分類(3.2.1)、肯否(3.2.2)、テンス(3.2.3)の観点にわけてまとめておく。調査項目ごとの注意点についてはB項の注記(印)を参照されたい。

3.2.1. 可能の意味について

(a) 実現可能の分節

潜在可能については、上にいくつか例をあげたように、「可能であることの条件」によって異なった形式が使われる方言があることがわかっているが、実現可能についても同様に、「可能であることの条件」によって違った形式が使われることがあるかどうかは、まだ十分にはわかっていない。たとえば、「人里離れた山に分け入ろうと試みて、実際に途中まで行った」といった文脈のなかで、

(18) 人気がなくくて怖くて、途中までしか行けなかった(心情)

(19) 体力がなくくて、途中までしか行けなかった(能力)

(20) 体調が悪くて、途中までしか行けなかった(内的条件)

(21) 立ち入り禁止の看板があって、途中までしか行けなかった(外的条件)

といった調査文を設定したとき、例文(18)と(19)は特定の一次的なできごとについて述べている点で、

(22) そんな人気がないところ、昔は怖くて行けなかった(潜在可能、心情)

(22) 昔は体力がなくくて、高い山には行けなかった(潜在可能、能力)

のような、永続的な心情・能力を言う(同じような条件のもとではいつもそのようなことを行うことが(不)可能であるということを使う)潜在可能としての心情可能・能力可能とは違いがある((18)(19)は、先の3.1(b)に述べた定義では、心情・能力可能とは言えない)。(20)(21)も、潜在可能の内的条件可能・外的条件可能と同じ可能形式が使われるかどうかはわからない。実現可能については、今後の調査に待つべきところが多い。

(b) 条件の下位分類

前節の「可能であることの条件」の4分類は、あくまで reference point を示しただけのものである。方言によっては、分節のありかたがもっと粗いことや、逆に細かく下位分類されることもある。下位分類の例としては、たとえば能力可能について、

(b-1)「量が多くて動作を成し遂げることができない」ということを特別に分節する方言がある

(23) こんなにたくさんは食イオーセン(静岡西部)

(b-2) その他、能力可能形式のありかたに影響を与える可能性のある能力の下位類には、次のものが考えられる

- ・ 生得能力と獲得能力
- ・ 能力と知識(to know how to)
- ・ 人間の能力と人間以外の能力
- ・ 種の能力(総称)と個体の能力

といったことがある。また外的条件(状況)可能についても、次のような下位分類の可能性を念頭に置いておく必要がある。

(b-3)「時間的余裕がないために動作を行うことができない」ということを特別に分節する方言がある

(24) 時間がなくて行キダサン(九州)

可能

(b-4) 外的条件可能は、さらに、主体が行動決定権をもつ場合ともたない場合に二分されうる。「するわけにいかない」に相当するのは前者。典型的な外的条件可能は後者。

(25) 今日は忙しいから手紙が書けない (書くか書かないかの最終的な選択は主体に任されている)

(26) ペンがないから手紙が書けない (書くという選択肢は主体に与えられていない)

以上の諸点については、調査対象となる方言に応じて項目を細かく設定する必要がある。

(c) 語用論的意味と意味論的意味：禁止

潜在可能の外的条件可能について、四国・中国・東北地方の一部では、助動詞レル・ラレルによる否定可能文が禁止表現として文法的・固定的に用いられている。

(27) a そんなことイワレンヨ (= 言ってはいけない)

b そんなことはずかしくてヨーイワン (= 言えない (心情))

c そんなこと、私の立場上イエンヨ (= 言えない (外的条件))

なお共通語でも、次のように可能文が禁止の意味を表すことがあるが、これは語用論的な意味であり、キャンセルできる。

(28) ここはタバコは吸えません

(29) ここは魚は釣れません (立て看板)

(d) 条件の多重性

文によっては、可能の条件が特定できないもの、複数の条件が考えられるものなどがある。たとえば次のようなものである。

(30) 私は道がわからないから会場まで行くことができない (心情・能力)

(31) こんな波の高い所ではこわくて泳ぐことができない (心情・状況)

(32) その川は汚いから泳ぐことができない (心情・状況)

(30)を例にすればこの文は、「道がわからない状況で行くような勇氣は私にはない」といった心情の読みと、「知識がそなわっていないから実行不可」という能力可能の読み、少なくとも二つの読みが可能である。調査では、このような文を採用することはできるだけ避けたい。

3.2.2. 肯定文と否定文

(a) 方言によっては、肯定文と否定文で用いる形式が異なることがある。

・東北地方の外的条件可能：書クニイー (肯定)・書カレナイ (否定)

・関西の能力可能：書ケル (肯定)・ヨー書カカン (否定)

(b) 心情可能は、否定文では調査文の作成が容易であるが、肯定文では設定しにくい。

(33) ぼくは度胸があるから夜のお墓だつて行ける

といった肯定文は、

(34) 夜のお墓なんて、怖くて行けない

可能

といった否定文とくらべたとき、そのモーダル表現度の度合いにおいて低い、客観的な能力叙述に近い文のように思われる。

(c) 潜在可能の調査は、否定文のほうが容易である。可能文とはそもそも、自身が行いたいと思っている動作や変化について述べるものなので(したがって、「試験に落ちることができる」といった文は通常の解釈ではなりたたない)、可能を表す形式が得やすいのは、次の(36)のような、希望(むずかしい字を読むこと)と実際(その字が読めないこと)のギャップが認知的に顕著な、不可能を表す否定文である。

(35) どんなむずかしいでも読める

(36) こんなむずかしい字は読めない

肯定文の場合には、調査においては単純動詞形が得られることが多く(読メルに対する読ムなど)、このような場合に読メルと読ムの違いをインフォーマントに尋ねると、後者を、

(37) 私は(絶対に)読む

といった意志や決意を述べる文に解釈するケースが多いのか、「後者が強い意味」をもっているといった内省が得られやすい。あくまでも可能形式を引き出すよう注意することが必要である。

(d) 一方実現可能については、夕形において、

(38) 昨日は久々にそこに行けた(実現可能)

のような実際に実現したできごとを、

(39) 昨日は久々に行けたのに行かなかった(潜在可能)

といった実現しなかったできごとと対比しつつ設定することができるので、(c)で述べたこととは逆に、肯定文のほうがインフォーマントに理解してもらいやすい(ル形については次項を参照)。否定文の、

(40) 昨日は結局郵便局には行けなかった

といった文では、実現可能と潜在可能の分類基準を動作の発動(の予定)の有無ということに設定しても、動作の達成がなかったという点では同じであり、その違いをインフォーマントに理解してもらうのはむずかしいかもしれない。もちろん、この基準が可能表現の記述にとって重要な意味をもつかどうかも確認する必要がある。

3.2.3. テンス

ここでは可能文のテンスに関して、ル形の問題をまとめる。夕形については、3.2.2(d)に述べた。

(a) 潜在可能

潜在可能文は状態動詞を述語とする文であるので、基本的にル形で現在を表す。

未来については、心情可能や能力可能は、定義上、主体に永続的な属性がある・ないこと(現在)、あった・なかったこと(過去)を述べるものであり、そのような属性が主体に備わるか否かが不明な未来時について可能形式を、

(41) *来年は悲しくてその映画が見られない

可能

(42) *来年は英語が話せる
のようにハダカの形で用いて言及することは不自然で、変化を表すヨウニナル・クナル等を下接させる必要がある。

(43) 太郎はあと 10 年もすれば、100 メートル 12 秒では { *走れない / 走れなくなる } よ

また、一時的 (時間限定的) な未来について言う場合にも、

(44) # あしたは夜のお墓なんてこわくて一人で行くことができない

(45) * あしたはからだが弱くて泳ぐことができない

といった文は非文になる ((42) は実現可能としては可)。

一方内的条件可能については、動作を行うことが可能であるか否かが時間によって変わりうることを述べるものであるために未来時について言及することはできるが、

(46) # あしたは体調が悪くて仕事に行くことができない

のような、予測不可能な未来の内的状態に言及する場合には成り立たない。

(47) 私は足をケガしてあしたは泳ぐことができない

のような、未来の状態がほぼ確実に予測できる場合には適格な文になる。外的条件可能も同様。

(b) 実現可能

実現可能は基本的に動きを表すものであるため (したがってテイルが共起する) ル形は、

(48) その仕事、あしたの朝までにはやれる

のように、(達成時について) 未来を表すのがふつうである。

実現可能のル形が現在を表すのは、

(49) (自分 = 行為主体にはむずかしい字は書けないと言う相手に対して目の前で書いてみせながら) ほら書くことができるよ

(50) (ドアをあけようとしながら) このドア、あけられないな

の例のように、動作を伴っている場合、あるいは動作を反復的に実現する場合である。

ただし、未来については、実際に動作が発動する (あるいは現在発動中の動作が達成にいたる) のは未来のことであり、(48) のような文が、動作の発動を予定しつつ仕事の達成段階に言及する実現可能なのか、動作を実行に移すか否かは別として仕事を完遂する能力等の存在のみを言う (= 「その仕事、僕ならあしたまでにはやれる。(やるつもりはないけど)」) 潜在可能なのかは、にわかには判断できない。したがって、調査もむずかしいところである。もちろんそれに先だって、潜在可能・実現可能の対立が、未来を表す可能表現の記述にとっても重要なものであるのかどうか、経験的に確認されなければならない。

3.3. さらなる注意点

調査上の注意点を 2 つ、補足して述べる。

3.3.1. 可能形式と可能の意味の対応関係

可能

まず、方言によって複数の可能形式が使い分けられるというとき、それぞれの可能形式は、アスペクト・テンスにおけるル形・タ形・テイル形・テイタ形のカテゴリカルな対立のように、ある特定の可能の意味を排他的に表すとは限らないということがある。形式と意味の対応関係のありかたとしてはむしろ、ひとつの可能形式が複数の可能の意味を表し、また、ひとつの可能の意味が複数の可能形式によって表されるという、多対多の対応関係にあるのがふつうである。たとえば大阪方言などでは、可能の副詞ヨーは心情・能力・内的条件可能を表すが、これらの意味は可能動詞（肯定）、助動詞（ラ）レル（否定）によって表すこともできる。

ただし、どちらの形式をより使いやすいかという点には違いがあり、副詞ヨーは心情可能に多く用いられやすいといった偏りが観察される。

したがって、調査においては、一つの語形を得たからといってそこで次の項目に進むのではなく、他の語形についても使用の有無を尋ね、複数の併用される場合にはどのように異なるのか、さらに細かく調べる必要がある。

3.3.2. 記述の重点

多くの方言について一般化できるほど確認できているわけではないが、可能形式の変遷は、外的条件可能を表す形式が能力可能（・内的条件可能）の意味分野をも表す形式となって拡大していく過程であることが多い。このことを踏まえれば、可能の意味を形式的に区別する方言においては、能力可能形式（と内的条件可能形式）が有標形式であると判断することができる。

したがって、可能の調査においては、典型的な（潜在可能の）能力可能形式がその他のどのような可能の意味にまでまたがって使うことができるかの記述に留意することが大事になる。調査項目を作成する場合には、能力可能・内的条件可能の下位区分（前者については 3.2.1 (b) 参照。後者については、主体の体調・気分・感情など）を詳細に設定する必要がある。

3.4. ラ抜きことばの調査など

以上本節では、可能の意味を中心に、調査を行う際の着眼点を述べてきた。

しかし、ラ抜きことばの語彙的伝播など、可能の意味以外の側面を記述する場合には、それに対応した調査項目を設ける必要がある。たとえばラ抜きことばの場合には、動詞の活用タイプや音節数によって使われやすさが異なるため、その実態を捉えるためには、同じ外的条件可能でも、着ル（一音節語幹上一段動詞）・起キル（二音節語幹上一段動詞）・寝ル（一音節語幹下一段動詞）・開ケル（二音節語幹下一段動詞）などの条件の異なる動詞を用いて調査文を作る必要がある。

ただしこれは、社会言語学的な記述調査の場合であり、本ガイドブックがねらう文法的な記述とは、その目的を若干異にする。

3.5. 可能文の格を調べる際の着眼点

可能

最後に、可能文の格を調べる際の着眼点について述べておく。

可能文の格は可能形式の出自と連動しているので、まずこのことについてまとめておこう。可能形式の出自には、次のようなものがある。

(a) アスペクト系 (完遂相 = 「最後まで成し遂げる」の意を表す)

補助動詞エル・キル・オーセルなど

(b) ヴォイス / 自発系

(ラ) レル (・カナウ)・ナル・デキル

(c) 副詞系

(エ・) ヨー・ナンボなど

(d) 混合系

可能動詞 (補助動詞エルと自動詞の両者が関連)

この出自に対応して、可能文の格は、典型的には次のように現れることが多い。

(a) アスペクト系・(c) 副詞系

[動作主体：ガ][対象：ヲ]

(b) ヴォイス / 自発系

[動作主体：ガ][対象：ガ]

[動作主体：ニ][対象：ガ]

(d) 混合系はいずれの格パターンをもとる。ただし近年は、(b)のヴォイス / 自発系のうち(ラ)レルと動名詞デキルも、(a)や(c)と同じ格をとることが増えている。

なお、格について調査項目を作成する場合には、次の2点に注意することが必要であろう。

()対象については、否定文ではハで取り立てられることが多いので、肯定文のほうが調査がしやすい。しかし、動作主体の格については、肯定・否定ともハで取り立てられやすいので、次のように埋め込み文で調査するなどの工夫が必要である。

(51)[太郎が 英語が 話せる]ことはみんな知っている

() そもそも助詞を使用しない地域も多いので、無理に尋ねるとインフォーマントを混乱させることにもなる。注意が必要である。

4. 研究の現状

可能についてはこれまで、潜在可能における能力可能と状況可能がどのような形式によって表されるかという点にだけ興味が集中し、格パターンを含めて、可能の体系全般を明らかにするという試みが十分になされているとは言いがたい。

第3節でまとめた視点を踏まえつつ、さらにあらたな視点を加えて、各方言の可能の分節体系を詳細に記述することが求められている。

5. 文献

木部暢子他 (1988)「九州北部の可能表現」『文献探求』21

渋谷勝己 (1993)「日本語可能表現の諸相と発展」『大阪大学文学部紀要』33-1

可能

B . 項目

【調査項目・調査文作成の方針】

項目立ては可能の意味によって行った。動詞の活用などは考慮していない(A.3.4 参照)。また格を調査するための項目も作成していない。必要に応じて作られたい。

調査文の可能形式は、『方言文法全国地図』などにしたがって、スルコトガデキルにほぼ統一した。

理解(調査)しやすさを考えて、潜在可能は現在否定から、実現可能は過去肯定からあげる(A.3.2.2 参照)。

実現可能については、条件ごとに細かく調べることに意味があるかどうか十分にはわかっていないので(A.3.2.1(a))、条件ごとに項をわけることはしない。細かく調べる必要がある場合には、例を参考にして調査文を作ってみてほしい。

項目番号は節間でできるだけ対応させるようにしたために、欠けているところがある。各項目には、必要に応じて、によってコメントおよび注を記した。は下位項目(1.1 など)に関するもの、はその項目すべて(1.など)に関するもの。

すでに言語地図や回答語形一覧がある調査文についてはできるだけそれを採用し、調査文例のあとに次のように出典を記した。

表現法 = 『表現法の全国的調査研究』(国研準備調査報告書、1979)

図集 = 『方言文法資料図集(2)』(同、1982)

九州 = 『九州方言の基礎的研究 改訂版』(1991)

GAJ = 『方言文法全国地図第4集』(1999)

【項目一覧(目次)】

1. 潜在可能：現在否定
 - 1.1 心情
 - 1.2 能力(1): 生得と獲得
 - 1.3 能力(2):(人間と)人間以外
 - 1.4 能力(3): 総称(と個体)
 - 1.5 内的条件
 - 1.6 外的条件(状況)
2. 潜在可能：過去否定
3. 潜在可能：未来否定
 - 3.5 内的条件
 - 3.6 外的条件(状況)
4. 潜在可能：現在肯定
 - 4.1 心情
 - 4.2 能力(1): 生得と獲得

可能

- 4.3 能力(2):(人間と)人間以外
- 4.4 能力(3):総称(と個体)
- 4.5 内的条件
- 4.6 外的条件(状況)
- 5. 潜在可能:過去肯定
- 6. 潜在可能:未来肯定
 - 6.5 内的条件
 - 6.6 外的条件(状況)
- 7. 属性可能
- 8. 実現可能:過去肯定
- 9. 実現可能:現在肯定
- 10. 実現可能:未来肯定
- 11. 実現可能:過去否定
- 12. 実現可能:現在否定
- 13. 実現可能:未来否定

1. 潜在可能:現在否定

1.1 心情

- (1) 夜のお墓なんてこわくて一人で行くことができない(一人称)
- (2) ヲレターなんてはずかしくて書くことができない(同)
- (3) うちの妹ははずかしがりやだからヲレターなんて書くことができない(三人称、近)
- (4) 太郎ははずかしがりやだからヲレターなんて書くことができない(三人称、遠)

(1)と(2)は一人称主語の文で心情可能の典型。(3)と(4)は(2)に対する三人称の文であるが、(2)と同じ形式が同じ程度に自然に使える場合には、その形式はモーダル化して(心情可能を表す形式に傾いては)いない。

モーダル化している場合には、感情移入のしやすさから言って(3)のほうに心情可能形式が出やすいことが予想される。A.3.1(b)参照。

1.2 能力(1):生得と獲得(人間・個体主語に限定)

- (5) 私は生れつきからだが弱くて泳ぐことができない(生得能力、一人称)
- (6) 私は酒を少しも飲むことができない(同、GAJ)
- (7) 私は海で10メートル以上はもぐることができない(獲得能力)
- (8) うちの孫はまだ小さくて字を知らないので本を読むことができない(同、GAJ)
- (9) うちの孫はまだ一人では着物を着ることができない(同、表現法)
- (10) 練習しているけどまだ100メートル以上は泳ぐことができない(獲得過程の能力)

可能

(11) そんなむづかしい仕事は私にはできない(獲得能力(知識) 図集)

(12) 「ウツ」なんていう字はむづかしくて書くことができない(同)

能力が生得的なものか獲得されたものかといった違いが形式的な使いわけに關与する方言があるか否かは不明である。また、生得と獲得を明確に区別できない例も多い。以下同様。

1.3 能力(2):(人間と)人間以外(三人称・個体主語に限定)

(13) このサボテンは花を咲かせることができない

(14) このクレーンは30ト以上のものは持ち上げることができない(道具の能力、7も参照)

(15) この橋は10ト以上の重さをささえることができない(同)

(16) この鉛筆けずりはきれいにけずることができない(同)

(17) この部屋は100人しか収容することができない(場所の能力)

1.4 能力(3):総称(と個体)

(18) 人間は空を飛ぶことができない(人間能力総称)

(19) ペンギンは空を飛ぶことができない(動物能力総称)

能力可能は、1.2の生得・獲得能力のうち「個体・人間」主語について述べるものが典型で、能力可能形式がもっとも用いられやすい。1.3の(14)~(17)は道具や場所のもつ能力についての能力可能文としたが、「人はこのクレーンで」といった人間総称能力可能文とみることできる。

方言によっては能力の内容がさらに下位区分され、用いられる形式に反映する場合がある。A.3.2.1(b-1)参照。

(20) こんなにたくさんは食イオーセン(静岡西部)

(付録)九州におけるキルの用法を把握するために

九州北部を中心として分布する能力可能形式キルは、上に述べた能力可能以外にも、その文法化の連続性を反映して、多様な意味を表す。その意味の広がりをつめるための調査文を以下に示す(述語部のみ方言で記す)。記号の意味は、(a) = 能力可能、(b) = 主体内の条件による動きの達成(キルの原義に近いが、必ずしも共通語のキルと同義ではない)、(c) = 外的条件(状況)による動きの達成。以下の文を参考にして、キルの用法、可能とのかかわり等を確認されたい。

1. 有情物主語による動作の完遂

(a) 英語なんて話シキラン(能力:達成限界なし)

(a) こんなむづかしい歌は全然歌イキラン(能力:達成限界不関与)

(b) こんなむづかしい歌は最後まで歌イキラン(完遂能力:達成限界関与)

(b) こんなにたくさんは食べキラン(完遂能力:達成限界関与)

2. 非情物主語による動きの達成(可能関連形式)

可能

- (b) 栄養分が行き渡っていないのか、この花は咲キキラン
- (b) せっかく接ぎ木をしたのに、この花は咲キキラン (木部他 1988)
- (c) あんなに手入れしたのに、この花は咲キキラン (木部他 1988)
- (c) 場所が狭すぎて、この花は咲キキラン (木部他 1988)
- (c) 陽が当たらないから、この花は咲キキラン (木部他 1988)
- (b) この洗濯機は力がなくて回りキラン
- (b) もう古くなったから洗濯機が回りキラン (木部他 1988)
- (c) 洗濯物を入れ過ぎたから洗濯機が回りキラン (木部他 1988)
- (c) コードの接触が悪くて洗濯機が回りキラン (木部他 1988)
- (b) 私の風は上がったけど、あんなのは上がりキラン (木部他 1988)
- (b) 作り方が悪いのか、風が上がりキラン (木部他 1988)
- (c) 風がないので、風が上がりキラン
- (b) なかなか雨が降りキラン (愛宕八郎康隆 1978「肥前長崎地方の『～キル』
『～ユル』について」『長崎大学教育学部人文科学研究報告』27)

1.5 内的条件

- (21) 今日は体調が悪いから仕事に行くことができない (一人称)
- (22) 今日は気分が悪いから泳ぐことができない (同)
- (23) 私は足をケガして泳ぐことができない (同)
- (24) 太郎は足をケガして泳ぐことができない (三人称)
- (25) その白鳥は足をケガして泳ぐことができない (同)

内的条件可能は、その条件が一時的なものである点で心情可能や能力可能と異なるが、その条件が主体内部にある点で両者と共通するため、能力可能形式が比較的用いられやすい。人称については「1.1 心情可能」の注参照。

内的条件可能は、「気分」などのような主観的なことが条件になる場合には、三人称の文は作りにくい(蓋然性のモダリティ形式を下接すれば可能)。「ケガをしている」のような、第三者が外から見てわかることであれば作ることができる。以下同様。

1.6 外的条件 (状況)

- (26) 今は用事があるから郵便局に行くことができない (主体による行動決定可)
- (27) 今日は遊泳禁止の旗が立っているから泳ぐことができない (同)
- (28) この着物は小さく (古く) なったのでもう着ることができない (同、表現法・GAJ)
- (29) 忙しくて 10 時前にはなかなか寝ることができない (同、図集)
- (30) こんなやかましい処では、本などは読めない (同、九州)
- (31) 便せんがなくて手紙を書くことができない (主体による行動決定不可)
- (32) そのプールは改装中で泳ぐことができない (同)
- (33) 電燈が暗いので小さな字は見ることができない (同、図集)

可能

(34) 電燈が暗いので新聞を読むことができない(同、GAJ)

(35) 鍵をなくしたのであけることができない(同、図集)

主体による行動決定権という概念については、A.3.2.1(b-4)参照。

方言によっては外的条件の内容がさらに下位区分され、用いられる形式に反映する場合がある。A.3.2.1(b-3)参照。

(36) 時間がなくて行きダサン(九州)

2. 潜在可能：過去否定

「1.潜在可能：現在否定」にあげた例文を、副詞などに必要な変更を加えた上で、述部を夕形に変えればよい。たとえば心情可能では、次のようになる。

(37) 小さいころは夜のお墓なんてこわくて一人で行くことができなかった(一人称)

(38) ヲラレタなんてはずかしくて書くことができなかった(同)

(39) うちの妹ははずかしがりやだからヲラレタなんて書くことができなかった(三人称、近)

(40) 太郎ははずかしがりやだからヲラレタなんて書くことができなかった(三人称、遠)

なお、「1.4 能力(3): 総称(と個体)」にあげた総称の文については、主語の普遍的な属性を述べるものが多いので、夕形とはなじまないものがある。

心情可能や能力可能は主体の永続的な属性を述べるものであるから、過去といっても、一時的(時間限定的)な過去を言う場合には不自然である。

(41) *きのうは夜のお墓なんてこわくて一人で行くことができなかった

(42) *きのうはからだが弱くて泳ぐことができなかった

内的条件可能については、動作を行うことが可能であるか否かが時間によって変わりを述べるものであるために過去時については問題なく言及することができる。

(43) きのうは体調が悪くて仕事に行くことができなかった

(44) 私は足をがしてきょうは泳ぐことができなかった

外的条件可能も同様。

3. 潜在可能：未来否定

心情可能や能力可能は、主体に永続的な属性がある・ないこと(現在)、あった・なかったこと(過去)を述べるものであるから、そのような属性が主体に備わるか否かが不明な未来時について可能形式をハダカの形で用いて言及することは不自然である。変化を表すヨウニナル・クナル等を下接させる必要がある。

(45) 太郎はあと10年もすればそんなに速くは{*走れない/走れなくなる}よ

なお、一時的(時間限定的)な未来について言う場合にも、過去表現と同じように、

(46) #あしたは夜のお墓なんてこわくて一人で行くことができない

可能

(47) * あしたはからだが弱くて泳ぐことができない

といった文は非文になる((46)は実現可能としては可)

一方内的条件可能については、動作を行うことが可能であるか否かが時間によって変わりうることを述べるものであるために未来時について言及することはできるが、

(48) # あしたは体調が悪いから仕事に行くことができない

のような、予測不可能な主体的状態に言及する場合には成り立たない。

(49) 私は足を^カして^カいてあしたは泳ぐことができない

のような、未来の状態がほぼ確実に予測できる場合に例文を作ることができる。外的条件可能も同様。

3.5 内的条件

(50) 私は足を^カして^カいてあしたは泳ぐことができない(一人称)

(51) 太郎は足を^カして^カいてあしたは泳ぐことができない(三人称)

(52) 私は指を骨折して^カいて、あしたはパソコンを打つことができない(一人称)

3.6 外的条件(状況)

(53) 明日は用事があるから郵便局に行くことができない(主体による行動決定可)

(54) 明日は忙しくて10時前に寝ることはできない(同)

(55) 便せんがなくてあしたは手紙を書くことができない(主体による行動決定不可)

(56) 鍵をなくしたのであしたは金庫をあけることができない(同)

4. 潜在可能: 現在肯定

4.1 心情

肯定文の場合、次のように否定文に対応させて可能文を作ることができるが、

(57) 勇気があるから夜のお墓でも一人で行くことができる(一人称)

(58) 度胸があるから^カラ^カでも書くことができる(同)

それが否定文の場合のようにモダリティを表すものに傾いているかといえ、必ずしもそうとは限らず、客観的に能力を表しているようにも思われる。調査によって確認したいところである。A.3.2.2(b)参照。

4.2 能力(1): 生得と獲得(人間・個体主語に限定)

(59) 盃一杯ぐらいの酒なら、私だって飲むことができる(生得能力、九州)

(60) 私は海で10メートル以上もぐることができる(獲得能力)

(61) うちの孫は(もう)一人で着物を着ることができる(同、表現法・GAJ)

(62) 私はどんなむずかしい字でも読むことができる(獲得能力(知識))

(63) うちの孫は字をおぼえたのでもう本を読むことができる(同、GAJ)

(64) こんな簡単な仕事なら、おれにだってすることができる(生得?獲得?、GAJ)

(65) こんな簡単な仕事なら、おれにだってできる(同、GAJ。GAJでは動詞^カキルに

可能

相当する形式を調べるための項目)

4.3 能力(2):(人間と)人間以外(三人称・個体主語に限定)

- (66) このサボテンは花を咲かせることができる
- (67) このクレーンは30トンのものを持ち上げることができる(道具の能力、7も参照)
- (68) この橋は10トン以上の重さをささえることができる(同)
- (69) この鉛筆けずりはきれいにけずることができる(同)
- (70) この部屋は100人収容することができる(場所の能力)

4.4 能力(3):総称(と個体)

- (71) 人間は未来のことを考えることができる(人間能力総称)
- (72) 鳥は空を飛ぶことができる(動物能力総称)

4.5 内的条件

- (73) 今日は体調がいいから何時間でも泳ぐことができる
- (74) 今日はうれしいからいくらでも歌うことができる

4.6 外的条件(状況)

- (75) 電燈が明るいので新聞を読むことができる(GAJ)
- (76) 電燈が明るいので小さな字でも見ることができる(図集)
- (77) 忙しい仕事ですんだので、このごろは早く寝ることができる(図集)
- (78) 鍵があればあけることができる(図集)
- (79) この着物は小さく(古く)なったけれどもまだ着ることができる(表現法・GAJ)
- (80) 目覚し時計があるので早く起きることができる(GAJ)
- (81) 車があるので早く来ることができる(GAJ)
- (82) 今は時間があるから郵便局に行くことができる

5. 潜在可能:過去肯定

「4.潜在可能:現在肯定」にあげた例文を、副詞などに必要な変更を加えた上で、述部をタ形に変えればよい。たとえば「4.2 能力(1):生得と獲得」では、次のようになる(過去の文にしにくいものは省く)。過去であることを明示するために、ノ二を付ける。

- (83) 盃一杯ぐらいの酒なら、むかしは私だって飲むことができたのに(生得能力)
- (84) 以前は海で10メートル以上もぐることができたのに(獲得能力)
- (85) むかしはどんなむずかしい字でも読むことができたのに(獲得能力(知識))
- (86) こんな簡単な仕事は昔はおれにだってすることができたのに(生得?獲得?)

可能

その他、「2. 潜在可能：過去否定」に記した注意を参照。

6. 潜在可能：未来肯定

「3. 潜在可能：未来否定」の注意を参照。

6.5 内的条件

- (87) きょううれしいことがあったからあしたは泳いだらきっとすいすい泳ぐことができる（一人称）
- (88) 太郎は最近体調がいいから、あした受験すればきっといい成績を出すことができる（三人称）

蓋然性のモダリティ形式が共起するのがふつう。

(87) を例にした場合、潜在可能の場合には、あした泳ぐかどうかは不問。

6.6 外的条件（状況）

- (89) 明日は時間があるから郵便局に行くことができる
- (90) 明日は仕事が早く終わるから 10 時前に寝ることができる
- (91) 今日便せんを買ったからあしたは手紙を書くことができる
- (92) 今日鍵をもらったからあしたはあけることができる（けどどうする？）

7. 属性可能

- (93) この魚は毒があって食べることができない
- (94) このナイフは何でも切ることができる（4.3）
- (95) この万年筆はすらすらと書くことができる（cf. 自発、GAJ）
- (96) このジュースは飲める（＝うまい）
- (97) このナイフは使える（＝役に立つ）

潜在可能の心情可能や能力可能は主体についての属性を述べるものであるが、(93)～(97) は、主体以外の事物を主題として取り立てて、その属性を述べる用法である。このうち道具を取り立てたものが、「4.3 能力(2):(人間と)人間以外」にあげた例の一部と考えることもできる。この用法の場合には、基本的に潜在可能の外的条件形式が使われると思われるが、自発形式が使われるところもある。確認したい。

(96)(97) は、共通語ではスルコトガデキルでは置き換えられない特殊な例（松下大三郎の言う「評価の可能」）。

8. 実現可能：過去肯定

- (98) きょう勇気を出してやってみたら泳ぐことができた（心情、ただし 4.1 参照）
- (99) きょう勇気を出してやってみたら、彼女に話しかけることができた（心情）

可能

- (100)きのう勇気を出してやってみたら、夜のお墓でも行くことができた(心情)
- (101)きのう外国人に英語で話しかけてみたら、結構話すことができた(能力)
- (102)きのうも100メートル10秒で走ることができた(能力)
- (103)きのうは体調がよくて、1回泳ぐことができた(内的条件)
- (104)きのうは天気がよくて、頂上まで行くことができた(外的条件)
- (105)きのう時間ができてやっと郵便局に行くことができた(外的条件)
- (106)(長時間絵を描いていて)かけた! / できた! (完了)

実現可能は一時的(あるいは反復的)な動きについて述べるものであり、心情・能力といっても、実現可能の場合には、潜在可能のような主体の永続的な属性(実際にするか否かは別に、~しようとすればいつも~できる/できない)を述べる文とは異なって、その実際に行う/行った一時的(あるいは反復的)な動きが実現した/実現しなかった原因を言うものである。以下実現可能についてはすべて同様。

心情・能力については、(98)~(101)のように、それまで主体が気づいていなかった属性(心情(上では性格)・能力)が実は主体にあったという発見の意味あいが出ることがある。このような場合、発見して以後は、その心情・能力を潜在可能として述べることができる。

(107) あっ、書けた。僕にも書けるんだ

動作の実現が、主体自身にとっても意図しない、思いがけないものであるとき、意味的に自発に接近する。

9. 実現可能：現在肯定

- (108)(自分=行為主体には勇気がないからこの川は渡れないと言う相手に対して渡ってみせながら)ほらわたることができるよ(心情)
- (109)(自分=行為主体にはむずかしい字は書けないと言う相手に対して目の前で書いてみせながら)ほら書くことができるよ(能力)
- (110)(自分=行為主体は今病気だから泳げないと言う相手に、今日は気分がいいから泳ぐと言って実際に泳いでみて)ほら、泳ぐことができるよ(内的条件)
- (111)(錆ついてあかないと言い張る相手に、ドアをあけながら)ほらあけることができるよ(外的条件)

実現可能形式はテイル形をもつことからわかるように(A.3.1(a-1))、動き動詞である。したがってそのル形は、通常未来を表す。実現可能が現在肯定を表すのは、上の例のように、動作を伴っている場合、あるいは動作を反復的に実現する場合である。

10. 実現可能：未来肯定

- (112)私は冷静だから、明日はきっとうまくみんなの前で歌うことができる(心情)
- (113)あれだけ勉強したんだから、明日は絶対試験に合格することができる(能力)

可能

- (114)三日も休んだんだから、疲れもとれて、明日は絶対最後まで走ることができる(内的条件)
- (115)いまインクを取り替えたから、明日中に全部印刷することができる(外的条件)

この用法が潜在可能に接近することについては、A.3.2.3(b)参照。

11. 実現可能：過去否定

- (116)きのうの夜の肝試しでは、怖くてゴールまで行くことができなかった(心情)
- (117)きのう彼女に気持を告白しようとしたが、はずかしくてどうしても言うことができなかった(心情)
- (118)きのうあの山に登ろうとして途中まで行って見たけど、体力がなくて頂上までは行くことができなかった(能力)
- (119)途中で痛みが増してきて、そのまま泳ぎ続けることができなかった(内的条件)
- (120)あの本は時間がなくて最後まで読むことはできなかった(外的条件)
- (121)きのうあの山に登ろうとして途中まで行って見たけど、崖が崩れていて頂上までは行くことができなかった(外的条件)
- (122)きのうは思いも寄らない雑用が入ってきて、結局郵便局には行くことができなかった(外的条件)

(121)と(122)は、実際に動作が発動したか否かに違いがあるが、この違いが文法的に意味があるものかどうかは確認する必要がある。

(九州などでは、完遂的な意味を起源にもつ形式(キルなど)の使い方について、)(119)のような動きの持続を表す場合と、(118)(120)のような動きの達成を表す場合で異なるかどうか確認したい。

12. 実現可能：現在否定

- (123)(流れの急な川を途中まで渡りながら)こわくてむこうまで渡ることができないよ(心情)
- (124)(むずかしい字を書こうとして途中まで書きながら)どうもうまく書くことができない(能力)
- (125)(ケガをしていながら水に入って泳ごうとしてみてうまくできずに)やっぱり泳ぐことができない(内的条件)
- (126)(錆ついてあかないドアをあけようと試みて)あけることができないよ(外的条件)

13. 実現可能：未来否定

- (127)私は人前に出るとあがるから、明日ののど自慢大会でも、たぶんあがってしまってうまく歌うことができない(心情)
- (128)この3年間あまり勉強しなかったから、明日はまちがいなく試験に合格すること

可能

ができない(能力)

(129) 今日疲れていて、夜までには論文を書き上げることができない(内的条件)

(130) 原稿用紙がなくなったから、夜までには論文を書き上げることができない(外的条件)